

科 目 名	論理表現Ⅰ	普通科・ 1年次・2単位
目 標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらを実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けさせるコミュニケーションに必要となる、英語の基本的な表現力を身につける。	
位 置	中学校3カ年で学んだことを基礎にして、事実や意見などを多様な観点から考察し論理の展開や表現の	
づ け	方法を工夫しながら伝える能力を養う。	

■使用する教材		■学習する単元とおおよその時期	
・English Logic and Expression I be clear		(1)L1,2,3	時制 (4月)
・be Grammar Book clear		(2)L4,5	完了形 (5月)
・総合英語 be 4th Edition		(3)L6,7,8	助動詞 (6月)」
		(4)L9	受動態 (7月／8月)
■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法		(5)L10,11,12	不定詞 (9月／10月)
・予習:教科書に関するハンドアウトを活用し、 新出単語・熟語の定義、用例や、本文の 概要を把握する。Writing に関しては テキストの問題に取り組む。		(6)L13	動名詞 (10月)
・授業:ハンドアウトを活用した理解、定着、本文関連する 意見を交流。Writing, Listening は、テキストの内容に 関する理解、定着、活用。		(7)L14,15	分詞 (11月)
・復習:学習した項目の定着、活用		(8)L16,17	関係詞 (12月)
		(9)L18,19	比較級 (12月／1月)
		(10)L20	仮定法 (2月／3月)

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 学習した知識や技能に関して、 ほぼ正確に用いられる。	学習した事項の概念を理解し、 状況に応じて活用し、論理的に 表現をすることができる。	知識、技能の獲得や、思考・判 断・表現等の育みを粘り強い取り 組みをして行える。
	B 学習した知識や技能に関して、 ある程度、正確に用いられる。	学習した事項の概念を、状況に 応じて活用し、ある程度、論理的 に表現をすることができる。	知識、技能の獲得や、思考・判 断・表現等の育みを粘り強い取り 組みで行う姿勢はある。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の 場面	定期考査、小テスト	定期考査、パフォーマンス課題 (エッセイライティングなど)	授業中の参加態度